

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 上神主狐塚古墳

今回紹介するのは、上神主に所在する上神主狐塚古墳です。

この地域の古墳については、7月号で後志部古墳を紹介した際にも説明した通り、神主古墳群と呼ばれる古墳が集中する地域で、大型の円墳である浅間神社古墳をはじめ、前方後円墳である後志部古墳が代表的な古墳としてあげられますが、上神主狐塚古墳もその一つとしてあげられます。

本古墳は、平成5年に古墳と周りに掘られた堀の規模を確認するために、宇都宮大学考古学研究会によって発掘調査が行われ、全長41mの6世紀の前方後円墳で、周りに掘られた堀の幅も2〜7mもあることがわかりました。また、出土品も、土師器や須恵器と

いった器や、円筒埴輪・朝顔形埴輪・人面付円筒埴輪に加え、人物埴輪・動物形埴輪・馬形埴輪といった、形象埴輪が出土しました。

古墳というと埴輪を連想する人が多いかと思いますが、実際に出土するものとしては円筒埴輪が最も多く、人物埴輪についても冠をかぶる人や、甲冑をつけた武人、兵士や鷹匠・力士や農夫・巫女や子どもを背負う女性など多くの種類のものが作られており、当時の服装などを考える上でも貴重な資料になっています。動物形埴輪についても、鶏・水鳥・馬・犬・猪・鹿・牛・猿・魚などバラエティー豊富です。家形埴輪やいろいろなものをかたどった器財埴輪などもあり、ユーモラスな形か

ら、皆さんの記憶に残るものも少なくなく、当時の生活風習や死生観が反映されていると考えられています。ところで、これらがなぜ作られたかについては様々な説が出されていますが、720（養老4）年に完成した日本書記には、殉死する人

の代わりに、古墳に並べられたとの記述があります。しかし、これは後世につくられた話と考えられ、実際にはお墓と世間を遮断すると共に、古墳を飾り、その大きさと素晴らしさを演出し、葬られた人物の力を誇示するものであったと考えられるので



出土した人物埴輪の頭部

現在の土神主狐塚古墳は、里山の中で静かに佇んでいます。姿を、出土した埴輪たちが現在に伝えています。

巡回バス最寄りバス停

明治北線(みどりのバス) 上神主下車、徒歩15分
※古墳の所在は分かりにくいので、詳しくは、

生涯学習課 生涯学習係

☎ 9159

へお問い合わせください。

上三川町の古墳大きさランキング

	名称	大きさ(m)	所在地	形
1位	上郷瓢箪塚古墳	68	上郷	前方後円墳
2位	浅間神社古墳	58	上神主	円墳
3位	多功大塚山古墳	53	多功	方墳
4位	長塚古墳	50(推定)	大山	前方後円墳
5位	八幡前4号墳	48	多功	前方後円墳
6位	後志部古墳	46	上神主	前方後円墳
6位	五社神社古墳	46	大山	前方後円墳
8位	西赤堀遺跡1号墳	44	西汗	前方後円墳
9位	瓢箪塚古墳	43	大山	前方後円墳
10位	愛宕神社古墳	42	上郷	円墳
10位	長塚古墳	42	坂上	前方後円墳
11位	狐塚古墳	41	上神主	前方後円墳
12位	神主41号墳	40(推定)	下神主	前方後円墳
12位	新出古墳	40	大山	前方後円墳
12位	八龍塚古墳	40	上蒲生	前方後円墳